

PAM通信 コラム

2009年7月発行

＜第28回＞弱さを極める

ブームの頂点は過ぎてしまったかもしれませんが格闘技イベントの放送をよく見かけます。ここでは「最強の男は誰だ？」とか「霊長類最強」などの表現が使われています。でもこの最強とは何でしょう？そして最弱とは？

以前にテレビの対談番組で、映画監督としての北野武さんが「大きな名誉や地位を築いた今でも、パンツ一枚の姿でテレビに出演するのは何故ですか？」との質問に「シリアスな映画を撮るためには、その反対の馬鹿げたことをカー杯しないと、どちらも小さくなってしまうから」のような答えをされていました。最強と最弱の関係は、この答えに似ているのではないかと思います。強さを手に入れるためには、その反対にある弱さを併せ持つ必要があるのではないかという意味においてです。強さと弱さはプラスとマイナス、光と影のようにどちらか一方では存在できない表裏の要素なのではないでしょうか？

例えば、弱い立場の人は、同じく弱い立場の人の気持ちが理解でき、優しくなれるかもしれません。これは優しくなれる強さを持ったということにはならないでしょうか？弱い立場を「力がないこと」、「お金がない（収入が低い）こと」、「地位や肩書きがないこと」、「ルックスがよくないこと」、「ハンディキャップを持つこと」などと考えると、それらの立場の人たちは強さを持っていることとなります。そして、弱さが1つ増えるたびに強さも1つ増えることになるはずですが。しかし現実には、弱さを持つ人が強さを持つことは「強さを持てる可能性がある」というだけなのかもしれません。それでも可能性があることは重要なことだと思います。弱さの可能性の開花は自分の弱さを認識することに始まり、その認識により一歩引いた視点で周囲を見ることができるようになり、周囲の状況を見ることが出来る余裕から、強さを手に入れることになるのだと思います。最強を目指し最弱を実践することは興味深い方法だと思います。

上記のように考えてみると、私たちも、最弱で最強の可能性を秘めた存在です。これを有効に使い、社会的に弱い立場から良い社会の構築への提言をすること、そして、社会的に弱い立場での生活を実践することで社会を良くする可能性も秘めているのだと思います。あなたなら、どう考えますか？

パーソナルアシスタント町田 194-0013 町田市原町田 2-7-19-106 Mail : pam@w7.dion.ne.jp 緊急時:090-1406-9367